

C-56 縫いしろ分量としまつの方法について

恵泉女短大 O 藤井香代 実践女大 平岡和香子 鯉弦大 石毛フミ子

目的 既製服が、洗たくを重ねるうちに縫いしろがほつれたり、しまつが脱落したり、縫いしろ分量が少ないために縫い目裂けを起こしたりして、外觀の低下および使用不能になることを経験する。そこで、縫いしろ分量としまつの方法を検討した。

方法 実験材料としては、綿100%のブロード・キャラコ・ギンガム・デニムと、綿65%、ポリエステル35%の混紡ブロード・ローンを用いた。縫いしろ分量は、デニムは0.75cm, 1.0cm, 1.25cm, 他の材料は0.5cm, 0.75cm, 1.0cmの3段階とした。縫いしろしまつの方法は、家庭用ロックミシンによる縁かがり、ジグザグ縫い・ピンキング・無しまつの4種類とした。試験布は、たて・よこの布目方向のものを20cm×(5cm+縫いしろ分量×2)の大きさに裁ち、幅二つ折りにして縫い、縫いしろ2枚にそれぞれしまつを行った。その後、家庭用全自動洗たく機を用いて、20回の洗たくを行った。

結果 1. 実験材料別では、デニム>キャラコ>ギンガム>混紡ブロード・ローンの順序で繊維の脱落が大きかった。2. 無しまつ・ピンキングの場合は、よこ地に比べてたて地の繊維脱落が大きい傾向にあった。3. 縁かがり・ジグザグ縫いでは、ブロード・キャラコ・ギンガム・ローンにおいては20回の洗たくによってもしまつ部分の変化はなかった。しかし、デニムでは、たて地の縁かがりの場合、洗たく1回目においてすでに縁かがりの部分的脱落が見られ、洗たく回数を増すごとに脱落部分が大きくなり、20回後には大部分が脱落した。